

**製品保証期間：1年間**

保証内容の詳細については添付の「製品保証規定」カードをお読みください。

また最新の情報については弊社ウェブサイト（[www.minoura.jp](http://www.minoura.jp)）をご参照ください。

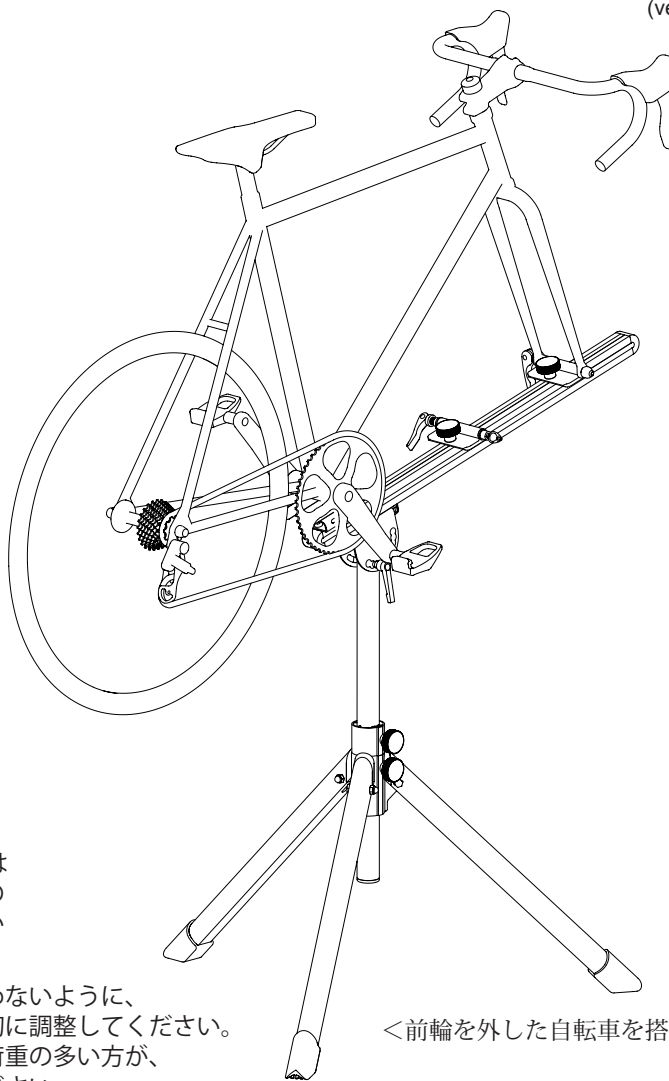
**適合フレーム****前フォーク内幅：100mm**

ハブナット式・9mm クイック式・  
12mm・15mm スルーアクスル式

**リアエンド内幅：120・125・130・135mm**

ハブナット式・9mm クイック式  
あるいは

**内幅 142mm** の 12mm スルーアクスル式



<前輪を外した自転車を搭載した例>

**注意していただきたいこと**

- RS-1800 は、通常の2輪スポーツ自転車の前輪あるいは後輪を取り外した状態で搭載し、軽整備を行なうためのスタンドです。ホイールベースの長い車体や重量の重いもの、また重整備などには不向きです。
- 自転車を搭載する際は荷重の偏りにより転倒してしまわないように、スライドアームを前後に移動させて重量バランスを適切に調整してください。またスライドアームが車輪の残っている側のいずれかが荷重の多い方が、三脚の脚の真上に来るようにして支えながらお使いください。
- 必ず平坦で水平な場所でお使いください。傾斜地や不整地では安定しません。また三脚はしっかりと開いてお使いください。
- 搭載できる自転車は、前フォークの場合は内幅が 100mm でハブナット式・9mm クイック式あるいは 12mm もしくは 15mm スルーアクスル式のもの。フレームリアエンドの場合は内幅が 120・125・130・135mm のハブナット式あるいは 9mm クイック式もしくは内幅 142mm の 12mm スルーアクスル式のもののみです。ハブ幅 74mm の小径車や 20mm スルーアクスルの DH 車、110mm のブーストハブなど、これら以外の寸法や規格の自転車は搭載できません。
- 油圧式ディスクブレーキ装着者の場合は、車輪を抜いてからは絶対にブレーキレバーを握らないでください。
- RS-1800 を移動させるときは、上部構造だけを持って持ち上げないでください。不意に支柱が抜けてしまうおそれがあり危険です。持ち運ぶ際は必ず本体フレームごと持って運んでください。
- ボトムブラケットを BB 受けに載せる姿で自転車を保持します。電動変速機のバッテリーやディレーラケーブルは逃げるような形状には設計してありますが、完全ではありません。車種によってはうまく搭載できない場合もあります。
- 自転車を搭載した状態で水平に回転させることができるという点を利用して洗車スタンドとしても用いることができますが、一部には水に濡れると錆びてしまう鉄製の部品が使われています。洗車の後にはできるだけ早いうちに水気を切り、しっかりと乾燥させて保管してください。
- 不意の自転車の脱落を防止するため、付属のベルクロバンドを使って車体を RS-1800 に縛り付けた状態で使用してください。

**問い合わせ先**

もし何かわからないことがあった場合は、まずお買い求めになった**販売店**にお問い合わせください。もしそこで十分な情報やサービスを受けられない場合に限り、下記までお問い合わせください。

**株式会社 箕浦**（製造元）

〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1  
Phone: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505  
[minoura@minoura.jp](mailto:minoura@minoura.jp)（営業）  
[infodesk@minoura.jp](mailto:infodesk@minoura.jp)（カスタマーサービス）  
[www.minoura.jp](http://www.minoura.jp)

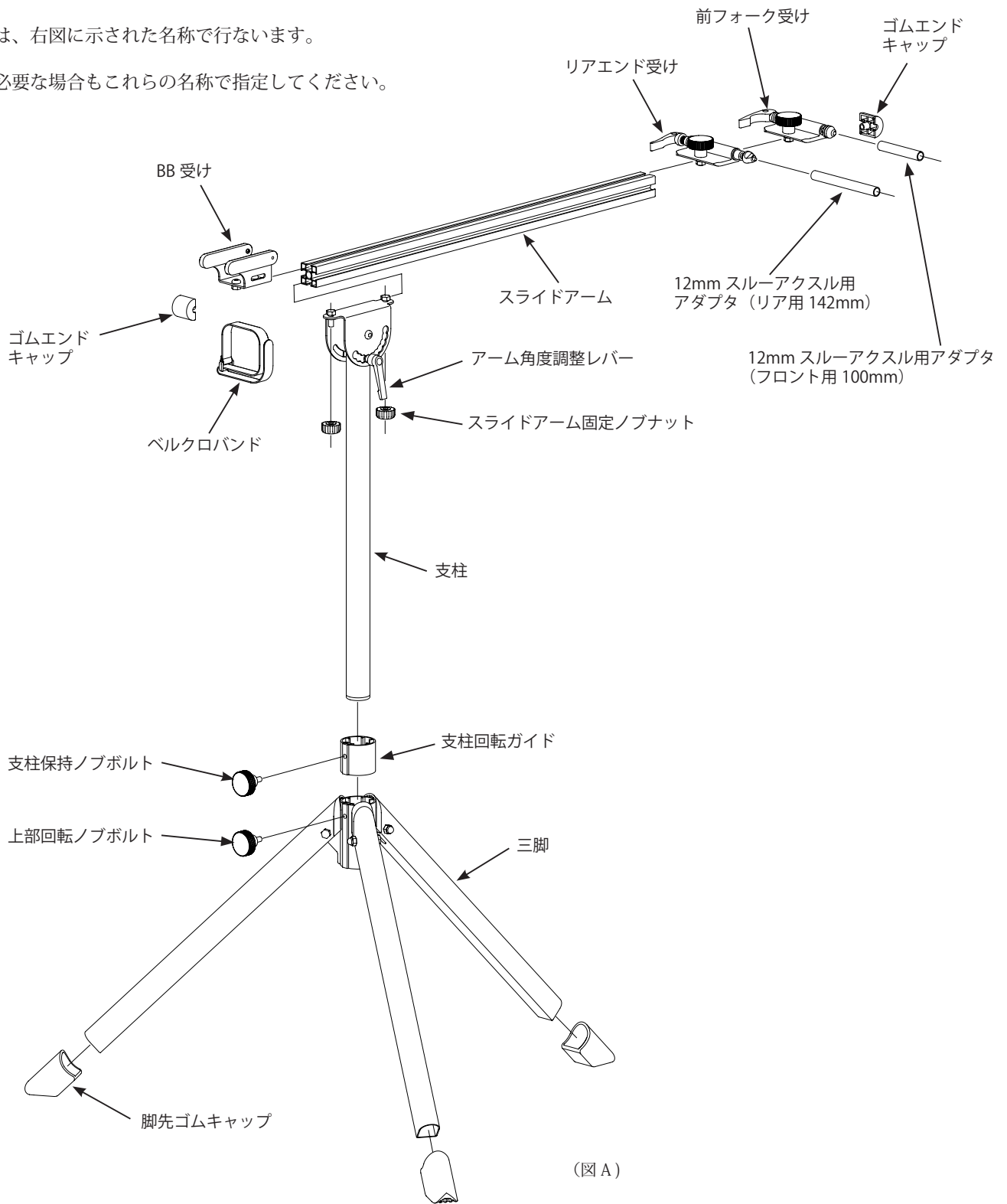
**株式会社 フカヤ**（販売元）

〒 460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37-3F  
Phone: (052) 228-8910 / Fax: (052) 228-8917  
[www.fukaya-sangyo.co.jp](http://www.fukaya-sangyo.co.jp)

## 各部の名称

以下の説明は、右図に示された名称で行ないます。

補修部品が必要な場合もこれらの名称で指定してください。



## 上部構造の水平回転について

下側にある「上部回転ノブボルト」だけを緩めると、三脚はそのままに、搭載した自転車ごと上部構造のみ水平回転させることができます。

これは、立ち位置をそのままに自転車の左右両面の整備を行ったり、自転車を洗車する場合に便利です。上側の「支柱保持ノブボルト」まで緩めてしまうと、自転車が支柱ごと急に下がってきってしまうので注意してください。

## RS-1800 の使用準備をする

RS-1800 はあらかじめほぼ組み立てられた状態で梱包されています。以下の手順で展開し、使用準備します。

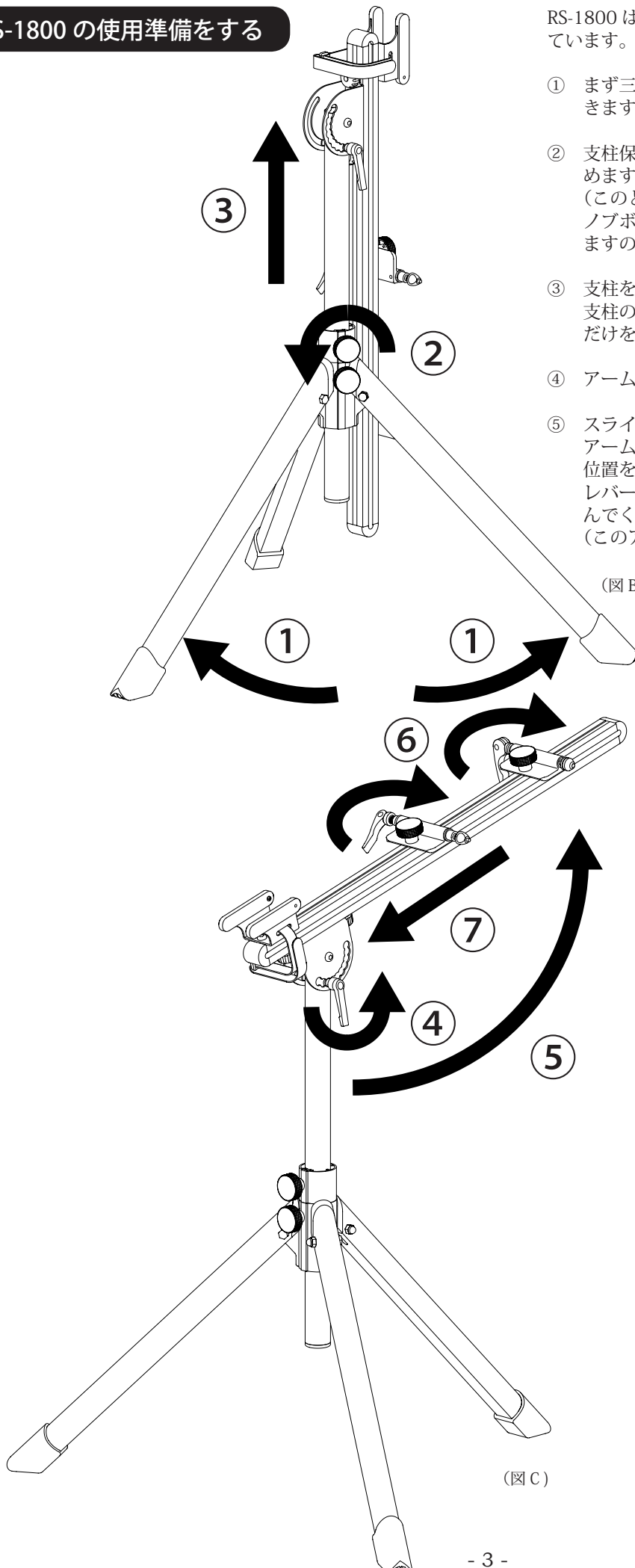
- ① まず三脚をいっばいに開き、水平で平坦な床の上に置きます。
- ② 支柱保持ノブボルトと上部回転ノブボルトの両方を緩めます。  
(このとき片手で上部を持ってください。2つめのノブボルトを緩めた瞬間に支柱が自重で落下していきますので、それを防ぐためです)
- ③ 支柱を引き上げます。  
支柱の高さが決まったら、上側の支柱保持ノブボルトだけを締めてその位置を保持します。
- ④ アーム角度調整レバーを緩めます。
- ⑤ スライドアームを回転させて持ち上げます。  
アームが適当な角度になったら、レバーを締めてその位置を保持します。  
レバー基部がすっぽりと孔の中に入るような位置を選んでください。孔と孔との中間では保持できません。  
(このアームはレバーだけを引くことで、使いやすく邪魔にならない任意の角度に回してセットすることができます)

(図 B)

- ⑥ 前フォーク受けとリアエンド受けは 90 度捻って梱包されていますので、ノブボルトを緩めアームと直角にします。  
台座裏側中央に位置決め用のボルトがありますので、これをスライドアームの中央の溝に入れば、それできちんと直角が出ます。  
(位置はあとで実際に自転車を搭載する時に決めますので、今は仮位置のまま構いません)

- ⑦ スライドアームは、梱包時にはいちばん端の位置にセットしてありますが、このままでは自転車を搭載した際に荷重が偏りすぎて転倒してしまう恐れがありますので、数センチ下げます。  
スライドアーム固定ノブナットを両方とも軽く緩めて (大きく緩めてしまうと脱落する恐れがあります) アームを後方にスライドさせます。適当な位置になったらノブナットを締めて保持します。  
自転車を搭載してからでもスライドはできます。最大限安定する位置で使用してください。

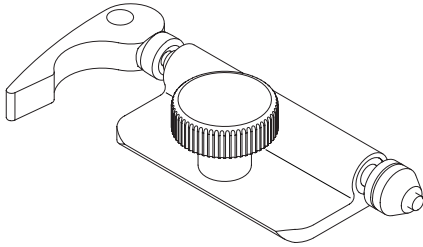
以上で使用準備が整いました。



(図 C)

## 前フォーク受けについて

前フォーク受けに装着されているクイックリリースは特殊なワイドストロークタイプとなっています。前フォーク下端にあるホイール脱落防止爪のせいで、通常のクイックだとナットまで緩めなければならないものが、これだとレバー操作だけで大きく開くためナット操作が不要になります。(図 D)



(図 D)



12mm スルーアクスルの場合、イモネジを強く締めてしまうとアダプタパイプが変形し、アクスルが通らなくなってしまいます。イモネジは軽く締めるだけにとどめてください。



前フォークの形状により前フォーク受け本体部に当たってしまう場合は、前フォーク受けを 180 度回して反対向きに取り付けて回避します。リアエンド受けも同様です。

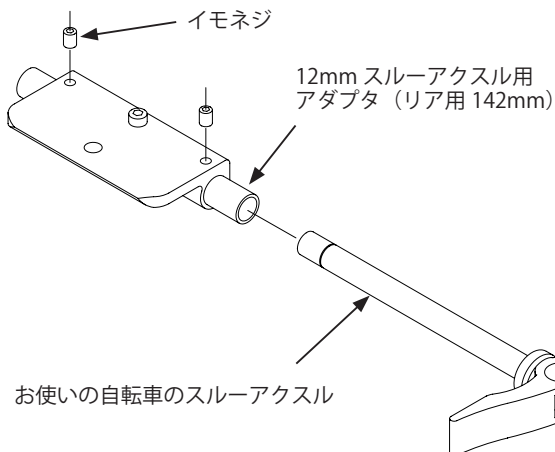
## リアエンド受けについて

リアエンド受けの両端のアルミブッシュにはそれぞれに幅の広い側と狭い側とがあります。そのアルミブッシュをパイプに挿入する方向の組み合わせで、4 種類のサイズに対応させます。(図 G)

ブッシュはあらかじめ 130mm 用に組まれています。それ以外のサイズに変更する際は、裏面のイモネジを緩めてからブッシュの抜き差しを行なってください。



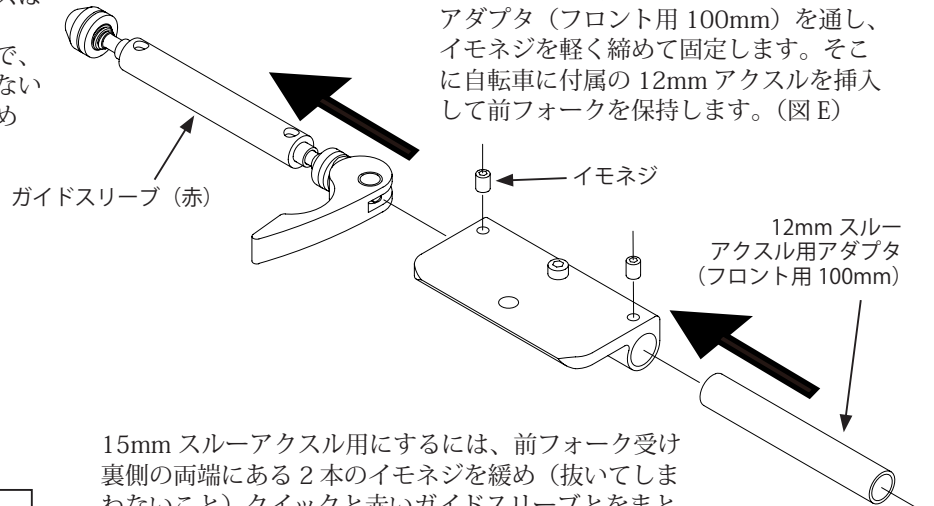
エンド幅は必ずお使いの自転車に正しく合わせてください。サイズが合わないまま使用すると、フレームを変形させてしまう恐れがあります。



(図 H)

12mm スルーアクスル用にするには、前フォーク受け裏側の両端にある 2 本のイモネジを緩め（抜いてしまわないこと）クイックと赤いガイドスリーブとをまとめて抜き取ります。

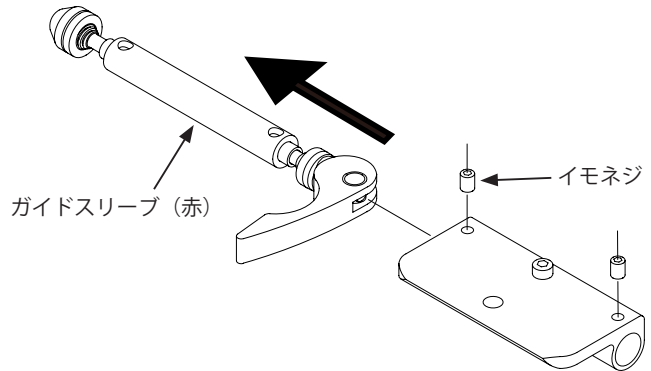
残った孔に付属の 12mm スルーアクスルアダプタ（フロント用 100mm）を通し、イモネジを軽く締めて固定します。そこに自転車に付属の 12mm アクスルを挿入して前フォークを保持します。(図 E)



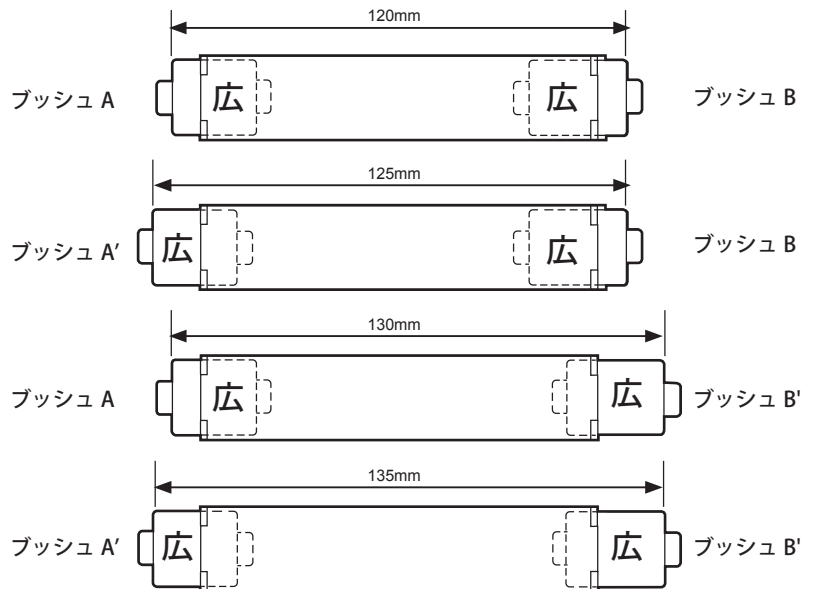
(図 E)

15mm スルーアクスル用にするには、前フォーク受け裏側の両端にある 2 本のイモネジを緩め（抜いてしまわないこと）クイックと赤いガイドスリーブとをまとめて抜き取ります。(図 F)

残った孔に、自転車に付属の 15mm アクスルを挿入して前フォークを保持します。



(図 F)



(図 G)

142mm 幅の 12mm スルーアクスルを使う場合は、ブッシュを両方とも抜き、孔の中に付属のアダプタパイプを差し込み、イモネジで軽く締めて保持します。そこに自転車に付属の 12mm クイックアクスルを通して自転車を保持します。(図 H)

## RS-1800 に自転車を搭載する

1

まず下側の上部回転ノブボルトを少し緩めて、スライドアームを回転できるようにしておきます。

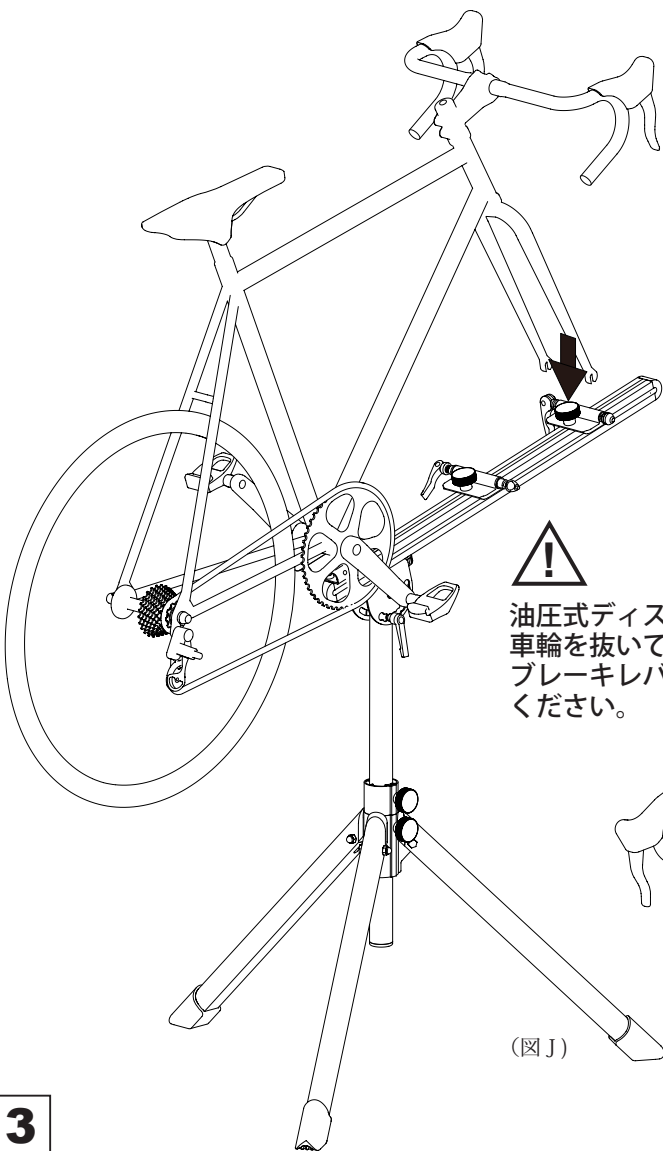
自転車を BB 受けの上に置いた際に滑り落ちないように、できるだけ最初はアームを水平にしておくことが望ましいです。

前輪を外して搭載する場合は後ろ側が、後輪を外して搭載する場合は前側が、それぞれ荷重が多くかかる方向になります。

そちらを三脚の脚 1 本で支えるように、三脚を回して使います。(図 I)



荷重の多くかかる部分が 2 本の脚と脚の間に来てしまうと、偏った荷重によりバランスを崩して RS-1800 が転倒してしまうことがあります。  
必ず荷重は真下の脚 1 本で支えるようにしてください。



油圧式ディスクブレーキ車では車輪を抜いてからは絶対にブレーキレバーを握らないでください。

(図 J)

3

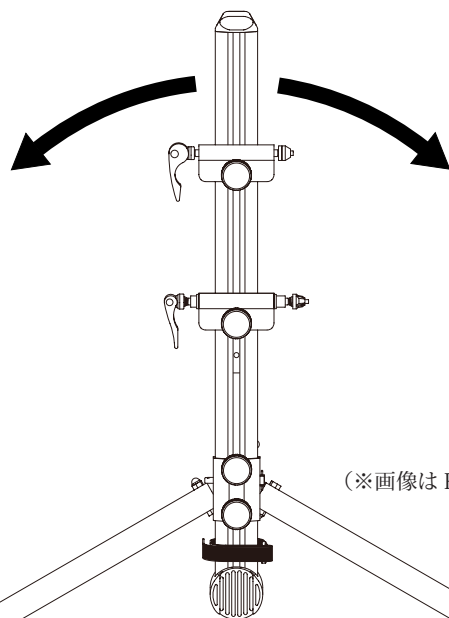
フレームリアエンドで保持する場合は、後輪を取り外します。

あらかじめお使いの自転車に合った幅にリアエンド受けが調整されていることを確認してください。

ボトムブラケットを BB 受けの上に置き、リアエンドを静かにリアエンド受けの上に下ろします。

リアエンド受けの位置が合わない場合は、ノブボルトを緩めてスライドさせてください。調整後はしっかりと締めておきます。(図 K)

クイックを開き、フレームエンドの爪をクイックにしっかりと差し込んでから、クイックのレバーを閉じて固定します。もし締め付けが適切でない場合は、レバーを閉じる前にナットで調整してください。



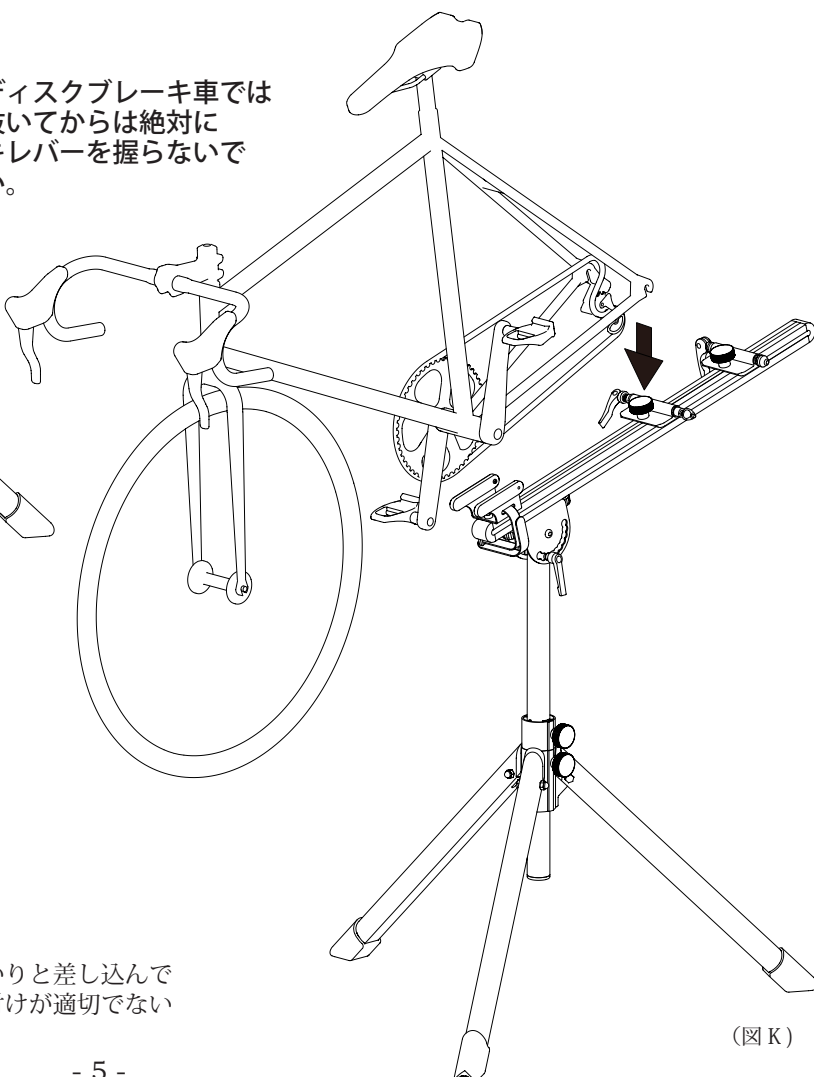
(※画像は RS-1700)

(図 I)

2

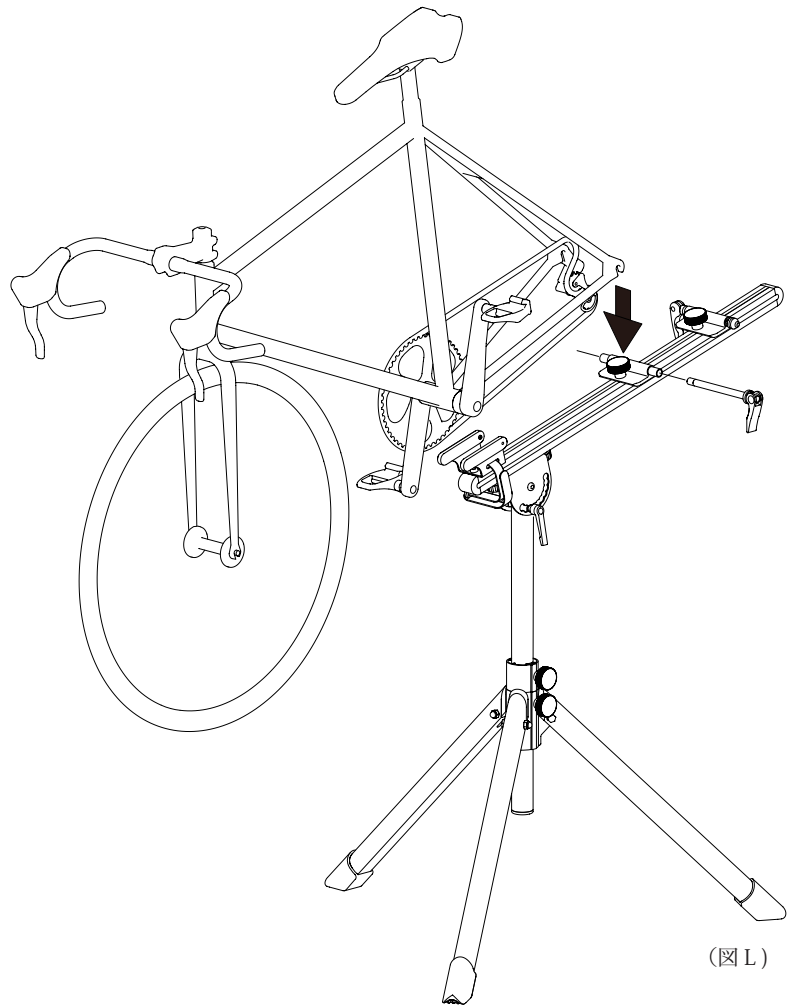
前フォークで保持する場合は、前輪を取り外します。ボトムブラケットを BB 受けの上に置き、前フォークを静かに前フォーク受けの上に下ろします。前フォーク受けの位置が合わない場合は、ノブボルトを緩めてスライドさせてください。調整後はしっかりと締めておきます。

クイックを開き、フォーク先端の爪をクイックにしっかりと差し込んでから、クイックのレバーを閉じて固定します。もし締め付けが適切でない場合は、レバーを閉じる前にナットで調整してください。(図 J)



(図 K)

12mm スルーアクスル式のフレームの場合は、フレームの孔とリアエンド受けのパイプとを合わせ、そこに自転車に付属の 12mm スルーアクスルを差し込んで使用します。(図 L)

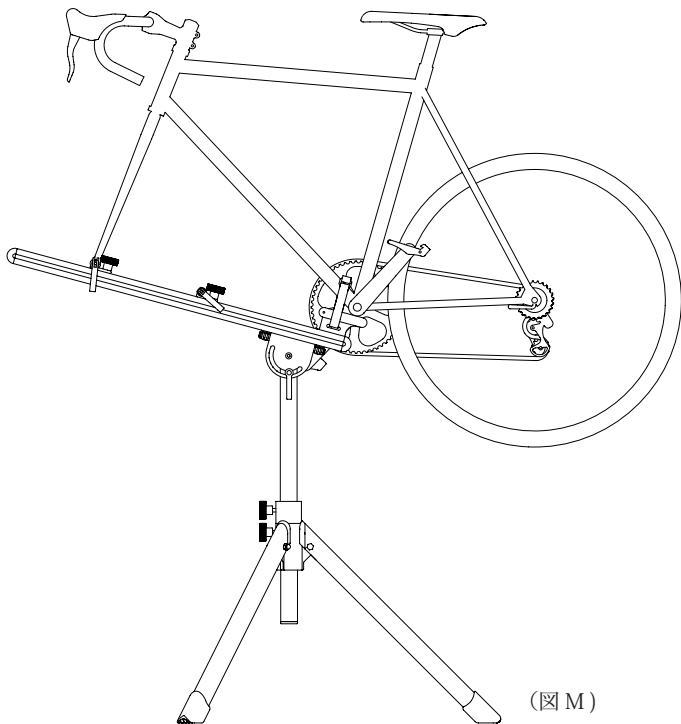


(図 L)

4

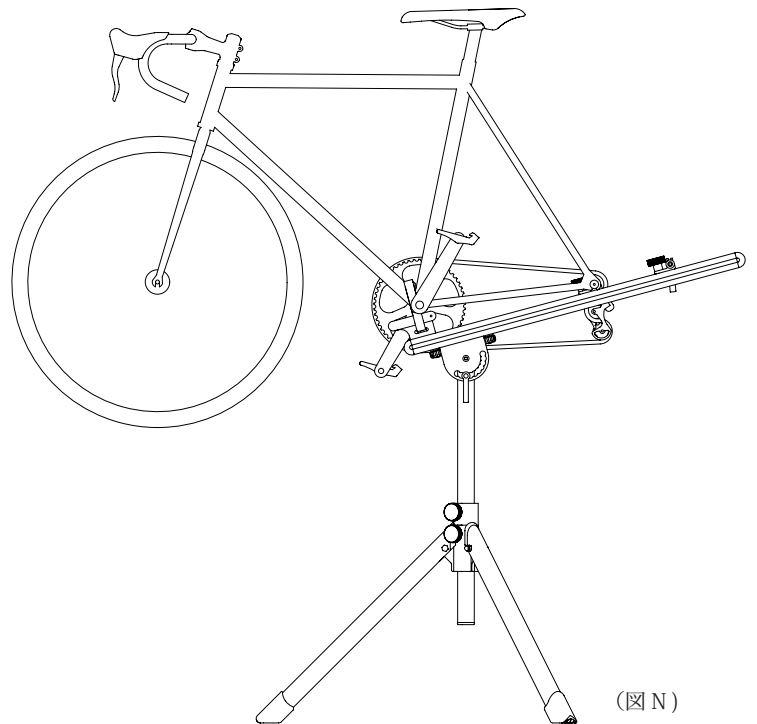
付属のベルクロテープでダウンチューブをアームに縛り付けて、不意の車体の脱落を防止します。

前フォークで保持している状態



(図 M)

フレームリアエンドで保持している状態



(図 N)



スライドアームは必ず、荷重が大きくなっている側（一般的には車輪が残っている方）が三脚のいずれかの脚の真上に来るように、回転させて位置決めしてください。  
またスライドアーム自体を前後に動かして重量バランスをうまく取ってください。